

山武農林振興センター振興普及だより

『山武のみのり』

第1号

育てよう！山武の若き担い手たち

- 農業経営体育成セミナー始まる -

山武農業の若き担い手となる新規就農者の定着と資質向上をめざした農業経営体育成セミナーの開講式が5月19日に開催されました。

今年は、新たに就農した青年6名を基本研修生に迎え、専門研修生5名、総合研修生11名の合計22名でセミナーが行われます。

開校式では、山武農林振興センター穴田所長から、「これからの農業経営は販売、企画力が問われる時代であり、若い感性で経営を伸ばして欲しい」また、来賓の指導農業士会山武支部作田会長からは、「夢のある農業の実現に向かって頑張ってもらいたい」との励ましの言葉がありました。

3年目を迎える総合研修生は基本・専門で学んだことを生かして、今年プロジェクト活動に取り組みます。自らのテーマをもって、計画を語る姿に他のセミナー生も多いに刺激を受けた様子でした。

このようなセミナー活動を通じて、若手後継者たちが、山武農業の担い手に成長していくことを願っています。



(励ましのあいさつに耳を傾けるセミナー生)



(将来の夢を語るセミナー生)

直売所のもつ魅力

農産物流通の新しい動きとして、米・野菜・切り花等の生鮮農産物や弁当・総菜などをはじめとした加工食品の常設直売所が山武管内でも増えてきています。

消費者が直売所を利用する理由として

- 品質・鮮度がよい
- 作り手の顔が見える安心感
- 地元のものが手に入る

などがあげられます。

また、生産者サイドからみた直売所のメリットとして

- 新たな収入になる
- 生産ロスが減らせる
- 加工など新しいチャンスがひろがる
- 地域に活力が生まれる

などがあげられます。

元気な直売所には創意工夫が数々あります。地域の中での役割が認知されていけば、地域住民への食文化の教育、公共施設への食材提供、情報発信など「地域社会の核」として活躍できる可能性をもっています。次回から、直売所のもつ様々な魅力を紹介していきます。

- 水稻病虫害対策 -

斑点米カメムシ類編

斑点米をひきおこすカメムシ類としては、特に緑色の細長いクモヘリカメムシ（写真）と茶色で肩にとげのあるホソハリカメムシが問題となります。

これらのカメムシは、出穂と同時に、水田に侵入してきます。そして産卵し、幼虫がふ化します。

出穂期に吸汁されると「しいな」に、出穂15～20日後に幼虫・成虫に吸汁されると「斑点米」になります。

カメムシの害を減らすために水田周辺の雑草は、稲の出穂2週間前までに刈りとりましょう。ただし、出穂間際の草刈りは、水田へカメムシを追い込むので注意しましょう。

乳剤や水和剤を使用する場合は、カメムシの成虫が飛来する出穂期、およびふ化した幼虫が加害する出穂15～20日後が防除時期となります。

粒剤を使用する場合、カメムシの出穂期頃に散布します。

いずれも使用基準を守って、農薬の飛散にも気をつけましょう。

無人ヘリによる防除を行う地域でも、その後に被害がおこる可能性があるため、注意が必要です。



クモヘリカメムシの成虫
(体長 16mm 前後)

堆肥の効果を実感

ソラマメで収穫が最大30%アップ

「ソラマメに堆肥が必要なのはわかっているけど、収量・品質に差がでるの？」この疑問に答えるべく管内5ヶ所のは場でソラマメに対する堆肥の施用試験を行いました。

用いた堆肥は管内の畜産農家の堆肥で、10a当りの施用量は平均2tでした。調査は5月14日より1週間おきに計3回おこない、結果は(表)のとおりとなりました。

堆肥施用区と無施用区の収量を比較すると最も収量差のあった圃場で30%。平均でも4%の増収となりました。3粒4粒莢(L等級)の割合も平均で7ポイント向上しました。

この差は特に収穫初期で大きくなりました。第1回の調査では最大で33%、平均で20%の増収となり、堆肥の投入で初期収量が向上することが確認できました。収穫調査終了後に株を抜き取り、根部の状況を調査したところ、堆肥施用区の方が根量、根張り共に優れていました。

今回の調査結果を10aあたりに換算すると堆肥施用による増収は17ケースとなりました。以外に少ないと感じるかもしれませんが、L等級に限れば、40ケースの増収となり下位の等級割合が減り、堆肥を使うことで収量だけでなく、品質もアップすることが確認できました。

堆肥施用によるソラマメの増収効果

	第1回収穫調査		第1~3回 収穫調査合計	10a 当たり 換算収量
堆肥施用区	全莢重(g)	1,740(120)	6,430(104)	514 ケース
	3~4粒 莢重(g)	954(144)	2,574(124)	206 ケース
	3~4粒 割合(%)	55	40	-
無施用区	全莢重(g)	1,457	6,210	497 ケース
	3~4粒 莢重(g)	663	2,070	166 ケース
	3~4粒 割合(%)	46	33	-

()内は堆肥無施用区を100とした場合の堆肥施用区の値

- 果 樹 -

ぶどうの管理

最近、育苗ハウスの空きを利用してぶどうの栽培をする人が増えました。美味しい実をとるための管理のポイントについて述べます。

1 枝を混ませない

いくら葉が多くても、日陰になっては役に立ちません。枝が重ならないように剪定をしましょう。また、ぶどうは木がとて大きくなるので、30坪のハウスなら苗は1本でも十分です。

2 実を成らせすぎない

実が多いと大きな甘い実はできないので、巨峰など大粒の品種では一枝あたり1房、デラウェアなど小粒の品種では2房に減らします。1房に着ける実も大粒種で25粒程度、小粒種で40粒程度なるよう房の肩の部分や先端の粒などを切り取ります。

3 病気・害虫に注意

きれいな実をつけるためには、早くからの防除が大切です。

この他に農薬に頼らない防除方法として冬の間には巻きひげや果梗の除去、幹の粗皮削りなどを行い病原菌や害虫の越冬を防ぎます。

時 期	対象病害虫	薬 剤 名
3月下旬 (萌芽前)	黒とう病・晩腐病 ハダニ類	トモテクト水和剤 250倍 石灰硫黄合剤 7倍
5月上旬	黒とう病・べと病	デランフロアブル 1,000倍
5月下旬 (開花直前)	黒とう病・晩腐病 灰色カビ病	ジマンダイセン水和剤 1,000倍 ロプラール水和剤 1,000倍
6月中旬 (落花直後)	黒とう病・晩腐病 チャノキイロアザミウマ	アミスター10フロアブル 1,000倍 オルトラン水和剤 1,500~2,000倍
6月下旬 (幼果期)	黒とう病・晩腐病 コガネムシ類	アリエッティC水和剤 500倍 スミチオン水和剤40 1,000倍
7月上中旬	べと病・晩腐病	オーソサイド水和剤80 800倍
7月下旬 ~ 8月上旬	黒とう病・晩腐病 コガネムシ類	ストロビードライフフロアブル 2,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍

シリーズ - ^{いま} 現在を輝く -

夢をかたちに...

東金市松之郷集落は、山間に田んぼが広がる農村地帯です。そこでブルーベリー栽培を営む土肥恵子さんを紹介します。

土肥さんは、以前から自分の住む地域の魅力を多くの人に知って貰いたいという思いがありました。その実現にむけて長年の間、生活改善グループの研修会で、農産物加工や都市部との交流方法など、農業における起業活動を学んできました。

その成果として今年5月にお客さんのふれあいの場としてシンボリツリーのシイの木が素敵なお店「しいの木」をオープンしました。「しいの木」では、野菜や加工品販売の他に、ブルーベリー摘みや太巻きずし教室、その田植えや稲刈り、里山散策などの農業体験メニューを楽しむことができます。

「何でもそろうお店ではないけれど、田舎の暮らしと空気を存分に味わってもらえれば・・・」と恵子さん。地域の自然を愛し、農業を愛する生き方が輝いていました。

「しいの木」

営業日：水曜日～日曜日

営業時間：13時00分～18時00分

